

知事、あす環境庁長官と会談

水俣病審査で協議

留任 徳臣会長らも同行

水俣病の審査問題を解決するため、沢田知事は八日、大石環境庁長官に会うが、さきに辞意を表明した県公害被害者認定審査会の徳臣比古会長もこれに同行することになった。また審査会に残る大橋達委員（水俣市立病院長）もこれに同行する。

大石環境庁長官との話し合いは八日午前九時半から一時間半ほど予定されており、この席で沢田知事、徳臣会長らは、三日の審査会で問題になった、水俣病の範囲について、環境庁の考え方をたたく。これに対し同行では、さきの次官通告を承知した。疑わしきも確定する。この方針をさらに具体的に説明、徳臣会長の留任認得に当たる方針である。

審査の早期再開を

自民党 水俣支部 委員の留任を要望

県公害被害者認定審査会の徳臣比古会長ら委員七人が辞意を表明した。これについて、自民党水俣支部（徳臣比古支部長）の代表十人は六日県庁を訪れ、沢田知事に「審査会を現状のままとし、一日も早く審査を再開してほしい」とを要請した。

また同支部長らは、水俣病の下の埋め立て、コロニー建設でも県の助成を要請した。これに対し、沢田知事は、「審査会委員の留任は、なかなかむづかしい問題だが、早急に結論を出し、審査を再開したい。下の埋め立て、コロニー建設については県も懸命に賛成で、埋め立ては現在検討中。コロニーも内容が充実したものを作りたい。できるだけの助成をした」と答えていると答えた。

川本さんら早期認定を陳情
水俣病市民会連の川本さんら四人と承認患者川本さんら四



早期認定を要請する日吉、川本さんら

人は、六日午前県庁を訪れ、衛生部長、井公衛課長に会い、「環境庁の差し戻し処分以来一月、県は未認定患者九人を早急に認定してほしい」と強く口頭で要請した。

日吉さんらは三日の県公害被害者認定審査会での徳臣会長ら七委員の委員辞意表明は、水俣病に苦しむ患者を忘れた勝手な言い分だ。徳臣会長はこの十年間全くといっていいくらい水俣病患者をみていない。メンツにこだわって権威主義を振り回すような人が会長

では、患者は救われない。県は会長に遠慮しすぎている。環境庁の議決に従って早急に九人を患者に認定してほしい」と、終始強い口調で要請した。

これに対し県は「徳臣会長ら七委員は決して患者を忘れていないわけではない」と返す。八日に知事と会長が大石環境庁長官と会い、三日の審査会のことや患者さんのことなどを話し合うことになっている。県としても過去にとどまらず、前向きに取り組むので了承願いたい。知事にもこのことを十分伝える」と答えた。